

Title	カザフ語の動詞Π 動詞型курделі етісктікの形態的緊密性
Author(s)	藤家, 洋昭
Citation	大阪外国語大学論集. 1997, 17, p. 21-32
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/79729">https://hdl.handle.net/11094/79729</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## カザフ語の動詞 π 動詞型 күрделі етістік の形態的緊密性

藤 家 洋 昭

### Қазақ тіліндегі «етістік-п етістік» тұлғалық күрделі етістіктер жөнінде

ФҰЖИЕ Хироаки

Қазақ тілінде -п тұлғалық көсемшесі мен тағы бір етістіктен қалыптасқан күрделі етістік («етістік-п етістік») тұлғалық күрделі етістік деп атаймыз) болады. Бірақ бұлардың морфологиялық тығыздығы жөніндегі талқылаулар қазірге дейін болмаған деуге болады.

Бұл мақалада, «етістік-п етістік» тұлғалық күрделі етістіктердің морфологиялық тығыздығына, екі етістік яғни -п тұлғалық көсемшесі мен тағы бір етістіктің арасында элементтің болатындығы, және салалас тіркесінде ортақ элементті жоя алатындығы сияқты екі жақтан зерттеу жүргізілді.

Қорытындылағанда, Қазақ тіліндегі «етістік-п етістік» тұлғалық күрделі етістіктердің морфологиялық тығыздығы төмен деп айтуға болады.

#### 1.はじめに

カザフ語伝統文法(Қазіргі Қазақ тілі, Балақаев & Қордабаев(1966)など)で күрделі етістік(複合動詞)あるいは күрделі баяндауыш(複合述語)と呼ばれているものがある。これは名詞+動詞型、動詞+動詞型等いくつかのタイプに分けられるが、語であるか、あるいは複数の語からなるいわゆる句であるのかについての研究はこれまであまりなされてこなかったようである。 Балақаев & Қордабаев(1966)では、これらを сөз тіркесі(語の組み合わせ)としているが、肝心の、語とは何かについての言語学的定義がなされていない。本稿でとりあげる動詞+動詞型の күрделі етістікについても当然のことながらそれらが一語の動詞なのかそれとも動

詞 2 語からなる句なのかはよくわかっていない。語とは何かということについてはさまざまな議論があり、何をもちて語とするかは基準によっても異なる。また、複合語の場合はそれが語彙的なものであるか統語的なものであるかが問題になることがある。カザフ語の күрделі етістік については、それが語であるのかどうか、語であるとすれば語彙的なものか統語的なものかといった問題は、全くといっていいほど明らかにされていない。そこで本稿ではカザフ語の күрделі етістік が語かどうかを論じる第一段階として、まず手始めに形態的緊密性という観点からカザフ語の күрделі етістік の性質を明らかにする。

## 2. күрделі етістік

分析に先立ってカザフ語の күрделі етістік (複合動詞：以下 күрделі етістік を複合動詞と呼ぶ) を概観しておこう。カザフ語の複合動詞には大きく分けて、名詞+動詞型と動詞+動詞型の二種類がある。そのうち動詞+動詞型の複合動詞は形態的に動詞-π 動詞型と動詞-e 動詞型の二種類に分けることができる。本稿でとりあげるのはこれらの中で動詞-π 動詞型の複合動詞である (以下、動詞-π 動詞型複合動詞を π 型複合動詞と呼ぶ)。

カザフ語の π 型複合動詞は前に来る V 1 と後ろに来る V 2 のふたつの部分からなり、V 1 が π 形で V 2 が活用の際して他の動詞と同じように人称、時制などによって活用する。

例

жазып болдым 「書きおえた」 (一人称単数形)

жазып болдын 「書きおえた」 (二人称単数形)

жазып беремін 「書いてあげる」 (一人称単数現在形)

жазып бердім 「書いてあげる」 (一人称単数過去形)

生産性という点ではカザフ語の複合動詞は生産性が比較的高いといえる。V 2 になり得るものは比較的限られているものの、それらは V 1 にいろいろな動詞をとることによって複合動詞を作ることができる。<sup>(1)</sup> 生産性の高さは辞典類 (Бектаев et al. 1992, Бектүров & Бектүрова 1993 等) の見出し語として複合動詞がそのままの形であげられることはないことからもうかがえる。しかし生産性の高さがすなわち形態的緊密性を否定することを意味するものではない。これら両者は独立した概念であると考えられる。

意味的には、カザフ語の複合動詞は V 2 の動詞が V 1 に何らかの aspektochnaya 意味を付加する場合がほとんどである。

оқыды 「読んだ」

оқып болды 「読みおえた」

оқып отыр 「読んでいる」

## 3. 形態的緊密性

ある表現が一語であるのか、あるいは複数の語からなるいわゆる句であるのかについての議論はいろいろある。最近では語彙性という概念が単一概念ではなく、形態的、文法的、意味的語彙性の三つに分けることができ、しかもその三つはある程度独立しているとの主張もされている(松本1996)。また、影山(1993)では語の定義として、語彙化と意味の慣習化、語形成の生産性と語彙的制限、形態的な緊密性、ふた又枝分かれ構造の制約をあげている。カザフ語のn型複合動詞が語であるかどうかを確かめることはもちろん重要なことであり、明らかにされなければならないが、本稿ではその前段階として、これらの中で形態的緊密性についてだけ考察する。したがって形態的緊密性だけをもってカザフ語の複合動詞が語であるかどうかを即答するつもりはないことをはじめにお断りしておく。

形態的緊密性について、影山(1993)は、形態的な不可分性、統語的要素の排除、外部からの修飾の禁止、語彙照応の制約の4点を上げている。本稿ではそれらを参考にしてカザフ語の複合動詞を、統語的要素の排除(«*ne*」の介入と受け身がどこに現れるかの二点)等位構造において共通要素が削除できるか、の三点に絞ってみていくことにする。

まずこれら三点が具体的にどういうことなのか見ておく必要がある。

#### 統語的要素の排除

語の内部には、句、格助詞、時制などの統語的な要素は侵入できない(影山199(3))。例えば、「日本ザル」は語であるが「日本のサル」は名詞句になる。一般に、「統語的な要素が侵入すると語ではなく句になると言われている」<sup>(2)</sup>日本語では例えば「も」などのようないわゆる副助詞は「飛び上がる」に対して「飛びも上がる」のように語の内部に介在することができない。

また、カザフ語の受け身接尾辞を統語的なものと考えれば、当然、語の内部に受け身はあらわれないはずである。すなわち、形態的緊密性が高い場合は語の内部に受け身は現れないはずである。このような、受け身テストを行いカザフ語の複合動詞の形態的緊密性を調べる。

#### 等位構造における共通要素の削除

等位構造における共通要素の削除とは等位接続構文において重出する表現を文末から順に削除するという規則である。一般に語の内部に立ち入っては共通部分を削除することはできない(影山1993)。例えば、日本語の「ちょうど同じ時に、姉は本を読み終え、妹はレポートを書き終えた。」という文から共通部分「終え」を削除すると、「ちょうど同じ時に、姉は本を読み、妹はレポートを書き終えた。」となる。この文は文法的に適切でありおかしな文ではない。しかし、「姉は本を読みおえた」と解釈することはできなくなる。可能な解釈は「姉は本を読んだ」であり、読みおえたかどうかはわからない。一方形態面から見て語ではない場合、すなわち形態的緊密性が低い場合を見ると、例えば、「兄は国立大学の法学部に入り、弟は私立大学の法学部に入った。」のように、共通部分を削除しても解釈が変わることはない。このようなテストをカザフ語

にも試み形態的緊密性を調べることにする。テストにおける文法性の判断はカザフ人インフォーマント (30代男性二人) によった。

カザフ語の複合動詞は先に述べたようにV 2として用いられるいくつかの動詞がありそれにV 1が組み合わさったと考えることができる。本稿では以下、方法としてはV 2をもとにタイプ分けをして、それらに各種操作を加えて文法性を判断するという方法をとる。V 2になり得る動詞は Қазіргі Қазақ тілі のリストをもとに選んだ。ただ Қазіргі Қазақ тілі は π 型複合動詞と e 型複合動詞の区別をしていなかったり、通常、動詞として使われない形のものを含んでいたりでするのでリストを修正した。その結果リストにあがったのは次の動詞である。

бол-, ал-, қал-, сал-, бер-, қой-, жібер-, кел-, көр-, түр-, отыр-, жүр-, таста-.

#### 4. 統語的要素の排除と等位構造における削除からみた形態的緊密性

##### 4. 1 統語的要素の排除

カザフ語の複合動詞はV 1とV 2の間に何らかの要素の介入を許すのであろうか。ここでは要素として де の介入、内部に受け身形が現れるかの二点について調べてみる。

##### 4.1.1 де の介入

日本語では「も」などのようないわゆる副助詞は「飛び上がる」に対して「\*飛びも上がる」のように語の内部に介入することができない。カザフ語にも「も」「は」によくにていると考えられる де<sup>(3)</sup>がある。де は

Шымкентке де бардым. 「チムケント (地名) へも行った。」

のように、句の内部には比較的自由に介入することができる。もし複合動詞が一語であればその内部に де の介入は許さないはずである。以下、V 2の種類ごとに де の介入をテストして調べる。

бол-

まず、бол- について見てみよう。бол- に、V 1として оқы-「読む」を組み合わせると оқып бол-「読みおえる」という形になる。оқып бол- のV 1とV 2の間に де を入れると、(母音調和と子音同化により де は та になって) оқып та бол- のようになろう。そして、これは文法的に適格であると認められる。

Нұрбек бұл кітапты оқып та болды. (本節では以下複合動詞にアンダーラインを、де に二重アンダーラインを引いて示す。)「ヌルベク (人名) はこの本を読み終えた。」

つまり、V 2 に бол- を持つ複合動詞の少なくとも一つは V 1 と V 2 の間に де の介在を許すということが出来る。用例は示さないが、他に жазып та бол-, жеп те бол-, ішіп те бол- などいずれも可能である。

以下、V 2 に他の動詞が来る場合の例をみておこう。

сал-

Жиында Нұрбек айтарын айтып та салды. 「会議でヌルベク (人名) は言うことをすべて言い尽くした。」

қой-

Нұрбек досына хат жазып та қойды. 「ヌルベクは友人に手紙を書いておいた。」

кел-

Нұрбек бұрыннан Түрк тілін үйреніп те келді. 「ヌルベクは以前からトルコ語を学んでもきた。」

көр-

Нұрбек шикі етті жеп те көрді. 「ヌルベクは生の肉を食べてもみた。」

түр-

Нұрбек досына хат жазып та түр. 「ヌルベクは友人に手紙を書いてもいる。」

отыр-

Нұрбек тамақ ішіп те отыр. 「ヌルベクは食事をしてもいる。」

жүр-

Нұрбек роман жазып та жүр. 「ヌルベクは小説を書いてもいる。」

таста-

Нұрбек барлығын жеп те тастады. 「ヌルベクはすべて食べてしまった。」

以上のように、V 2 の種類に関係なくほとんど問題なく де (те, та) の介入が可能である。п е (те, та) の介入が可能であるという点からは、カザフ語の п 型複合動詞の語彙的緊密性は低いと言えよう。

#### 4.1.2 受け身

次に受け身形についてみてみよう。

もし複合動詞が一語であればその内部に受け身形は現れないはずである。逆に、内部に受け身形が現ればそれだけ形態的緊密性は低いと言わざるを得ない。カザフ語に即して考えると受け身形が現れる場所は可能性として、V 1 の後ろか V 2 の後ろである。つまり、形としては「V 1 - 受け身 - π - V 2」か「V 1 - π - V 2 - 受け身」になる。もし形態的緊密性が高いのであれば V 1 π V 2 がひとつの動詞のようにみなされるわけだから、「V 1 π V 2 - 受け身」というようになるはずである。

ただしここで断っておかなければならないのは、受け身形テストは万能ではないということである。いうまでもなく、はじめから受け身形になることのできない動詞があり、それらは複合動詞になった場合にもおそらく受け身形にはなれないだろうということが予想される。その他の理由で受け身形が無理なものがあることも当然予想される。そういうことも十分承知の上でカザフ語複合動詞の受け身形を見ていくことにしよう。

бол-

まずはじめに V 2 に бол- を持つ π 型複合動詞を見てみよう。ポイントは受け身がどこに現れるか、具体的には「V 1 受け身 π бол-」か「V 1 π бол 受け身」のどちらになるかである。例えば、

Нұрбек бұл кітапты оқып болды. 「ヌルベクはこの本を読みおえた。」

という文における複合動詞 оқып бол- であれば оқылып бол- か оқып болын- のどちらかである（本節では二重アンダーラインは受け身を示す）。では実際どうかというと、おもしろいことに両方可能である。

Бұл кітап оқып болынды.

Бұл кітап оқылып болды.

「この本は読みおえられた。」

両方とも可能であるということは V 1 に受け身が付くということを含意する。すなわち形態的緊密性は高くないということができ、V 2 に受け身が付き得ることはこれを否定する根拠にならない。重要なのは V 1 に受け身が付くかどうかであって V 2 に受け身が付くかどうかではないことを確認しておく。

以下他の例についても検証してみよう。

ал—

Нүрбек сулық киіп алды. 「ヌルベクはレインコートを着た。」

Сулық Нүрбек жағынан киіліп алынды. 「レインコートはヌルベクに着られた。」

若干不自然ではあるが、ал— を V 2 に持つ複合動詞の例である。ここでもやはり受け身は V 1 に現れているが同時に V 2 にも現れていることに注目したい。このような、V 1 V 2 双方に同時に受け身が現れる現象を説明する余裕は本稿にはないが、興味深い現象と言える。いずれにしても V 1 には受け身が現れることには違いない。ちなみに、V 1 V 2 の片方だけの受け身は不可能である。

\*Сулық Нүрбек жағынан киіп алынды.

\*Сулық Нүрбек жағынан киіліп алды.

бер—

次は V 2 に бер— を持つ例である。

Нүрбек Сайраға кітап оқып берді. 「ヌルベクはサイラに本を読んであげた。」

кітап 「本」を主語にすると、

Кітап Сайраға оқып берілді.

Кітап Сайраға оқылып берілді.

「本がサイラに読んであげられた。」

というようになり、受け身は V 2、あるいは同時に V 1 V 2 の両方に現れる。

қал—

Бұл іс ұмытып қалынды. 「ヌルベクはこのことを忘れてしまった。」

Бұл іс ұмытып қалынды. (注 やや不自然であるというインフォーマントもいる。)

Бұл іс ұмытылып қалды.

Бұл іс ұмытылып қалынды.

「このことは忘れられてしまった。」

やはり、V 1 に受け身が現れることができる。

сал—

Нүрбек бұл кітапты оқып салды. 「ヌルベクはこの本を読み通した。」

?Бұл кітап оқылып салды.



Бұл кітап оқып салынды.

Бұл кітап оқылып салынды.

「この本は読み通された。」

қой—

Нұрбек досына хат жазып қойды. 「ヌルбекは友人に手紙を書いておいた。」

Хат жазылып қойды.

「手紙が書いておかれた。」

\* Хат жазып қойылды.

жібер—

Нұрбек Сайраның қолын қағып жіберді. 「ヌルбекはサイラの手を払いのけてしまった。」

?Сайраның қолы қағылып жіберді.

Сайраның қолы қағып жіберілді.

Сайраның қолы қағылып жіберілді. 「サイラの手は払いのけられてしまった。」

кел—

Нұрбек бұрыннан Сайраны бөзек қылып келді. 「ヌルбекは以前からサイラをいじめてきた。」

Сайра Нұрбек жағынан бөзек қылынып келді.

Сайра Нұрбек жағынан бөзек қылып келінді. 「サイラはヌルбекにいじめられてきた。」

なお、кел— は本来自動詞である。

көр—

Нұрбек Түркияның музыкасын тыңдап көрді. 「ヌルбекはトルコの音楽を聞いてみた。」

Түркияның музыкасы тыңдап көріді.

Түркияның музыкасы тыңдалып көрілді. 「トルコの音楽が聞いてみられた。」

この場合受け身形は V 2 あるいは V 1 V 2 に同時に現れる。

Сайра Гүлжамалды ұрып тастады. 「サイラはグルジャマル（人名）をなぐってしまった。」

Гүлжамал ұрылып тастады.

Гүлжамал ұрып тасталды.

Гүлжамал ұрылып тасталды.

「グルジャマルはなぐられてしまった。」

この場合はV 1またはV 2、または同時にV 1とV 2の両方に受け身が現れる。

#### 受け身のまとめ

受け身についてまとめると次のようになる。受け身形はV 1に現れることができる。V 2に現れるものもあるが、その場合でもV 1、または同時にV 1 V 2の両方に現れることができ、V 1にまったく現れることができないものは今までのところ見つけられていない。以上のことから受け身形の現れ方を見るかぎり π 型複合動詞の形態的緊密性は低いと言える。なお、動詞によって受け身が現れる場所が違うことが指摘できる。どのような原因でそのようになるのか興味深い。また、кел- は自動詞であるがこれらがV 2になったときは受け身形になることがある。その場合は複合動詞全体が受け身形になったと考えることもできる。いずれにしても本稿のテーマである緊密性からは少しはずれるので機会を改めて考えてみたい。

#### 4. 2 等位構造における共通要素の削除

今度は等位構造における共通要素の削除という点からカザフ語の π 型複合動詞を検討してみよう。先に述べたようにもし、語であれば共通要素の削除はできないはずである。

それでは実際にカザフ語の例を検討してみよう。4.1 で行ったのと同じように、V 2 ごとに見ていく。

бол-

Сағат секізде Нұрбек кітап оқып болды, Сайра сәлем хат жазып болды. 「八時にヌルベク (人名) は本を読み終え、サイラ (人名) は手紙を書き終えた。」

この文には、V 2 бол- を共通要素とする、оқып болды と жазып болды の二つの複合動詞がある。この文から共通要素 бол- (болды) を削除してみると次のようになる。

Сағат секізде Нұрбек кітап оқып, Сайра сәлем хат жазып болды.

この文は文法的に正しい文である。その読みであるが、問題は八時にヌルベクは手紙を書いたのかそれとも書きおえたのかである。サイラが書きおえたことは間違いない。答えは、ヌルベクは手紙を書きおえたである。つまり оқып болды の болды だけを削除することが可能ということになる。

以下他の π 型複合動詞についても見てみよう。

ал-

Нұрбек ағылшынша үйреніп алды, Сайра жапонша үйреніп алды. 「ヌルベク (人名) は英語をマスターし、サイラ (人名) は日本語をマスターした。」

共通要素を削除しても、Нұрбек ағылшынша үйреніп алды. 「ヌルベクは英語をマスターした。」という解釈が可能である。үйреніп алды「マスターした」үйренді「学んだ」であるが、上の文の解釈は、Нұрбек ағылшынша үйренді. 「ヌルベクは英語を学んだ。」ではない。

他についても同様にいずれも削除が可能である。

қал-

Нұрбек Алматыдан келіп ~~қалды~~, Сайра Алматыға кетіп қалды. 「ヌルベクはアルマアタからやって来て、サイラはアルマアタへ去っていった。」

сал-

Тойда Нұрбек айтарын айтып ~~салды~~, Сайра барлығын жеп салды. 「祝宴でヌルベクは言いたいことを言い尽くし、サイラは全てを食べ尽くした。」

бер-

Нұрбек інісіне кітап оқып ~~берді~~, Сайра сінлісіне әңгіме айтып берді. 「ヌルベクは弟に本を読んでやり、サイラは妹に話を聞かせてやった。」

共通要素 берді を削除しても Нұрбек інісіне кітап оқып берді と読みとることができる。<sup>(4)</sup>

қой-

Нұрбек алма алып ~~қойды~~, Сайра үзім алып қойды. 「ヌルベクはリンゴを買っておき、サイラはブドウを買っておいた。」

жібер-

Нұрбек жылап ~~жіберді~~, Сайра күліп жіберді 「ヌルベクは笑いだし、サイラは泣きだした。」

кел-

Нұрбек немес тілін үйреніп ~~келді~~, Сайра ағылшын тілін үйреніп келді.

この文からも Нұрбек үйреніп келді と読みとれる。

көр-

Нүрбек Түркияның сырасын ішіп ~~керді~~, Сайра Түркияның романын оқып керді.    нүрбек  
はトルコのビールを飲んでみて、サイラはトルコの小説を読んできた。]

түр—

түр— と次の二つ отыр—, жүр— の意味的な違いは微妙であるが、ここでは「～している」と訳しておく。

Нүрбек кітап оқып ~~түр~~, Сайра хат жазып түр.    [нүрбекは本を読んでいて、サイラは手紙を書いている。]

отыр—

Нүрбек кітап оқып, Сайра хат жазып отыр.    [нүрбекは本を読んでいてサイラは手紙を書いている。]

жүр—

Нүрбек кітап оқып ~~жүр~~, хат жазып жүр.    [нүрбекは本を読んでいてサイラは手紙を書いている。]

таста—

Нүрбек Аманболды абыржытып ~~тастады~~, Сайра Гүлжамалды ұрып тастады.    [нүрбекはアマンボル (人名) を狼狽させてしまい、サイラはグルジャマル (人名) をなぐってしまった。]

等位構造における共通要素の削除のまとめ

п 型複合動詞は等位構造における共通要素の削除という面でも、複合動詞における V 2 が共通要素になっているときその削除が可能なことかその形態的緊密性は低いと断言している。

## 5. まとめ

以上でわかったようにカザフ語の複合動詞の形態的緊密性はかなり低いと言える。もちろん、すべての複合動詞を調べたわけでもないし、形の上で同じ V 2 をもっているものがすべて同じタイプの複合動詞と断言するとはかぎらないという問題もある。しかしそれらのことを差し引いてもそれほど見当はずれの結論にはならないと思われる。今回は統語的要素の排除と等位構造における削除という複数の基準によって調べてみたがいずれの基準によって得た答えもおおむね一致していることを付け加えておく。

注

- (1) V 2 によっては生産性の低いものもある
- (2) ただしこの基準は絶対的なものではなく、「弱いものいじめ、いじめられっこ」のような例外があることが影山 (1993) にも述べられている。
- (3) 母音調和と子音同化によって де~да~та~те の異形態がある。
- (4) інісіне 「弟に」があるのでそれにつられて берді 「やる」の読みが出てくると考えることができ、厳密に考えると問題が残る。

参考文献

- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』ひつじ書房
- 松本 曜 (1996) 「語とは何か」『言語』25 卷 11 号 大修館書店
- Балақаев М & Т. Қордабаев (1966) Қазіргі қазақ тілі, синтаксис, Алматы.
- Бектаев Қ., Ахабаев А., Керімбаев Е., Моллабеков Қ. (1992) Қысқаша Қазақша—Орысша сөзлік, Алматы.
- Бектұров, Ш., А. Бектұрова, (1993), Қазақша—Орысша сөзлік, Алматы.
- Қазіргі қазақ, тілі, Қазақ ССР ғылым академиясы, 1954. (本稿ではҰлттар баспасы (1983) 版を使用)
- Shnitnikoff, B. N. (1966) *Kazakh-English Dictionary*, The Hague, Mouton.
- (1997. 5. 12 受理)